

# 08年サケ、マス

年	数量															
	漁獲(生産)		加工	輸入	輸出	東 京			缶詰	消費支出		月末	日露	アキ	北海	
	サケ	マス	養ギン	塩蔵	生	冷	生	冷	塩蔵		生(円)	塩(円)	在庫	協定	サケ	道
19	210	25	13.5	101.4	238.2	58.9	5.8	34.3	13.3	3.8	3,025	1,757	118.6	13.5	201.8	164
20	170	9	12.8		247.8	45.1	6.1	43.2	14.6	3.8	3,098	1,801	105.0	12.7	159.6	121
%	81	36	95	0	104	77	105	126	109	100	102	103	89	95	79	74

単位：数量、1000トン、価格、円/kg

年	価 格									
	秋	北海	本	輸	輸	東 京			消費支出	
	サケ	道	州	入	出	生	冷	塩蔵	生(円)	塩(円)
19	355	356	352	595	227	848	600	732	4,038	2,185
20	435	448	393	525	228	877	563	691	4,218	2,195
%	123	126	112	88	100	103	94	94	104	100

## 漁 獲 量

20年の北洋サケマス漁業は、ロシア200海里枠が中型船5,775トン（前年5,775トン）、小型船3,960トン（前年4,500トン）で中型船が前年並み、小型船が引続き減少となった。入漁料は中型・小型とも307円/kgで前年（292.5円/kg）並みであった。また、漁況はベニ増加、トキやや増加、マス大幅減少であった。またオホーツク建マスは半減となった。

日本200海里枠は3,005トンで引続き前年（カラフトマス主体3,175トン）を若干下回った。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道3,653万尾（前年4,951万尾）、本州1,207万尾（前年1,237万尾）、トン数では北海道12.1万トン（前年16.4万トン）、本州3.81万トン（前年3.78万トン）であった。

北海道では引続き前年をかなり下回り、近年では低水準の漁獲にとどまった。本州では前年を引続きやや上回った。

価格は、北海道での減産の影響や魚卵の在庫も少なく、対アジア輸出も下半期後半の急減もあったが上半期主体にそれなりに数字を伸ばしたこともあり、北海道は高騰した。しかし、本州は若干の上昇にとどまった。

魚体は、北海道3.32kg（前年3.31kg）、本州3.16kg（前年3.06kg）で、今年は北海道、本州とも前年並みであった。

国内養殖銀ザケは、1.28万トン（前年1.36万トン）であった。

## 輸 出 入

20年のサケマス輸入量は、24.8万トンで前年（23.8万トン）をやや上回った。

本年、天然ではベニが減少したが、養殖物ではギンが増加、トラウトが若干増加した。また、冷凍フィレーは引き続き増加したことが反映されたものである。

天然物の国別輸入量は（全てのサケマス類、フィレーを除く）、米国1.8万トン（前年2万トン）、カナダ0.35万トン（前年0.3万トン）、ロシア2.6万トン（前年2.9万トン）で米国、ロシアとも減少が目立った。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケの輸入は、依然好調に推移しており、世界的にもEU、米国、中国等の需要も伸びている。本年の国別輸入量はチリ12.9万トンで前年（11.4万トン）をやや上回った。たが、ノルウェーはEU需要

の伸びもあり2.2万トンで、前年(2.5万トン)をやや下回った。またニュージーランド(生・冷)、デンマーク(冷)、オーストラリア(生)等からの輸入は引続きみられているが、量的には少ないことに変わりはない。

輸入価格は、525円で世界的に旺盛なサケ需要の結果を受けて伸びていたが本年は、主力のベニ、ギンとも下げ前年(595円)を上回った。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは本年は国内生産も減少したこともあってやや減少し、4.5万トンと前年(5.9万トン)を下回った。

輸出先は、依然中国3.8万トン(前年約4.9万トン)で本年も前年並みの83%シェアであった。続いてタイ3,457トン(前年:5,439トン)、ベトナム2,784トン(前年:2,473トン)、台湾743トン(前年:744トン)、韓国215トン(前年:673トン)でベトナムを除くと減少した。

また輸出価格は、特に需要が依然強いものの、価格的にも上限となっており上昇せず前年(227円/kg)並みの228円/kgであった。

## 総供給量

本年は沖獲、輸入量が増加したものの秋サケ、建てマスの天然系の減少を反映し、総供給量は、前年をやや下回る51万トンとなった。

	19年	20年	対比(%)
総供給量	548,050	513,130	94
沖獲漁獲量	8,350	9,730	117
秋サケ漁獲量	203,000	160,900	79
建マス漁獲量	18,800	8,400	45
ギンサケ漁獲量	13,500	12,800	95
輸入量	238,200	247,800	104
期首在庫量	125,100	118,600	95
輸出	58,900	45,100	77

## 消費地入荷量と価格

サケの東京消費地入荷量は、生6.1千トン(前年5.8千トン)、冷4.3万トン(前年3.4万トン)、塩1.5万トン(前年1.3万トン)であった。

本年の入荷の特徴は、生鮮、冷凍原料及び製品とも久し振りに揃って増加したことである。

平成年代に入って順調に伸び定着してきた生秋サケは、本年も北海道の漁獲減少を反映し、高値であったが切り身、生フィレーでの販売が全国的に浸透し、本年も前年をやや上回った。こうした結果は家計支出にも反映され生、塩とも数量的、金額ベースともやや増加している。

価格は、生877円(前年848円)、冷563円(前年600円)、塩691円(前年732円)となった。

本年は産地では昨年に引続き秋サケ魚価の上昇があったが、旬の人気も定着や、養殖系サケの安定した価格の推移もあって、消費地市場でも生鮮が上昇したが、冷凍、塩蔵は、何れも昨年をやや下回った。